鹿児島市立桜丘中学校
令和５年１２月２２日

第９号

「マナーとルール（12月の全校朝会から）」

校長　上久保大介

１２月の全校朝会の校長講話を、話しきれなかった部分も含め紹介します。

「マナーとルールは似ていますが、何が違うのでしょう。」という問いをしました。答えは、**「“きまり”があるか、ないか」**です。**【ルール】**は“きまり”に従って守っているもので、言い換えると誰かに指示されてやっていることです。それに対し**【マナー】**は“きまり”がなくても守っていることで、誰に言われなくても、自分で責任を持ってやっていることです。更に付け加えると、**【マナー】**は相手や周りに対する配慮で、自分の思いをしっかりと持っていないとできません。そう考えると**【マナー】**は【ルール】を守ること以上に難しく、**精神的なステージの高い行為**と言えます。

その基盤となるものは**「善意」**であり、自分の良心に従い、周りの人のために行う行為で、その人の内側からわき出るものであるため、その言動には**人柄が表れてきます**。

学校生活では、はるかにマナーの方が多いのです。友だちをからかったり、雨の日の校舎内で騒いだりなど、自分のしたいことが衝動的に表に出てくるのが中学生の特徴です。しかし、中には、来校したお客様に丁寧にあいさつをしたり、重い荷物を自ら進んで持って差し上げたりなどする人もいます。外では、お年寄りに席を譲ったりする人もいるのではないでしょうか。身の回りのものに対する配慮や、人としての善意を思い起こし、よりよい【マナー】を身に付けることが、**道徳心**を身に付けることでもあると思います。

安全で安心な過ごしやすい国、住みよい町づくりのためにも、**一人一人が自覚**していかなければならないことなのだと、私は思います。

【マナー】と【ルール】を守ること、まずは桜中生から始めてほしいと思います。

最後になりましたが、私の干支である卯年も、あと１０日となりました。**今年も保護者の皆様、地域の皆様にはたいへんお世話になりました。**

来年も良い年でありますようお祈りいたしております。